

百名山自然ガイド ^{たん ざわ} 丹沢

^{とうのだけ たんざわさん ひるがたけ}
夏の塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳

山頂の標高:1491m・1567m・1673m

フナの子葉の見分け方



フナ



イヌフナ



マメグミ



マメグミは、7月頃にうす黄色の小さな花を咲かせます。長さ1cmくらいで、先が4つに分かれています。これは花びらではなく、がく筒(がくとう)と呼ばれるものです。

○フナの子葉は、ふちが波打っているのが特徴です。また、中央の葉脈から左右に分れていく支脈の数は9本前後(7~11本)で、若い葉には、表にもうらにも白い毛が生えています。

○よく似たイヌフナの子葉は支脈の数が多く、10~14本あります。マメグミの子葉は先が細くつき出していて、支脈の数は6前後のようです。

丹沢のフナノ林は今・・・

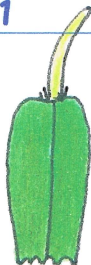
○丹沢は、四季おりおり美しく姿を変えるフナノ林で知られてきました。フナノは、冬になると木の葉を落としてしまいます。日本の落葉広葉樹の森を代表する木で、涼しい場所が好きなため、丹沢では、主に標高1000m以上の山頂部に生えています。

○しかし1970年代ころから、枯れてしまう大木が目立ち始めました。人間の活動で生じた酸性雨や気温の上昇がフナノを弱めていることが疑われていますが、フナノバチという虫の子どもがたくさん発生して葉っぱを食べてしまうことも、追い打ちをかけています。

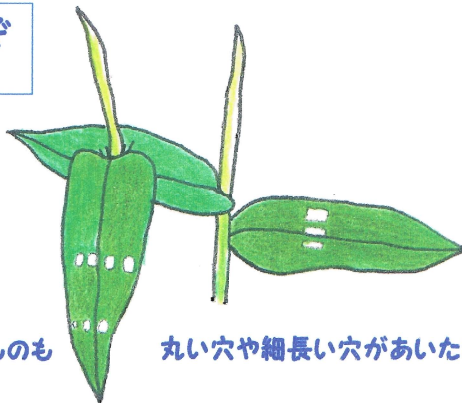
○フナノは、乾いた気候がにがてです。雪深い日本海側に大きな森を作っていますが、冬に乾く太平洋側では、少し無理をしている場所が多いようです。ぎりぎりのバランスがくずれたのかもしれませんが。

○これから、フナノの若木が長い年月をかけて育ち、大木の林が再び復活してほしいものです。

ササの葉の穴のなぞ ヒント1



穴が大きくて切断されたものも



丸い穴や細長い穴があいた葉が

○尾根道を歩いていて、穴がきれいに並んであいているササの葉を見かけませんか。この穴は、どうしてあいているのでしょうか？

○けものの歯形にしては、横にまっすぐ並びすぎています。人が道具でつけたものでもありません。白い点々が並んでいるだけのものもあります。13頁の**ヒント2**を見る前に、ぜひ推理してみてください。

山頂のササ原:ミヤマクマササとスズタケ

○丹沢の山頂部には、ササ原が広がっています。ササは、日本の気候になじんで、たくさんの種類に進化しました。

○ササの種類を見分けることはむずかしいのですが、丹沢の山頂部で見られるのは、ミヤマクマササかスズタケのようです。どちらも冬に葉のふちが白くなり、春になると、新しい緑の葉と交代します。

○葉のうら全体に細かい短い毛が生えているのがミヤマクマササですが、拡大してよく見ないとわからないかもしれません。スズタケの葉は幅が少し細めで、葉のうらの毛はありません。最近まで広い範囲に生えていましたが、シカに食べられたときの回復力が弱く、近年は枯れてしまうことも進みました。急速に分布がせばまっています。

○地下茎でつながったササ原は、土がけずられて山が荒れるのを防ぎます。しかし、他の草や若い木が育つじゃまをし、枯れるときはいつせいに枯れてしまう、という問題をかかえています。

大きな葉っぱ比べ

アサギマダラ

後のはねに黒いところがあるのはオス



5cm



5

オオバイケイソウ

30cm



マルバダケブキ



オオバイケイソウとマルバダケブキ

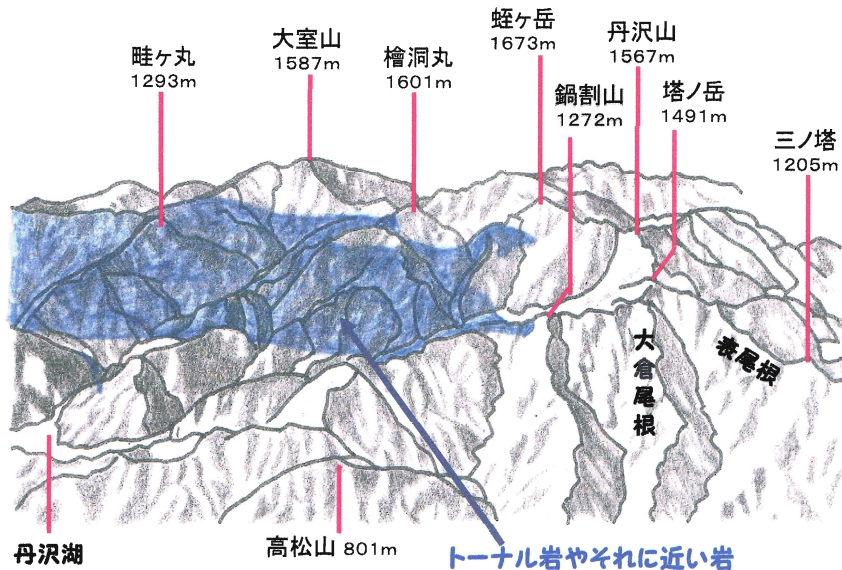
○春から夏にかけてのブナの林では、オオバイケイソウとマルバダケブキの大きな葉が目立ちます。どちらも有害な物質を含み、シカが、食べるのを敬遠しているため、生える場所が広がっています。

○オオバイケイソウは、高山の草原に咲くコバイケイよりもずっと大きく、花も加えると、人の背たけくらいになります。7月頃、まっすぐに伸びた茎の上部にたくさんの白っぽい緑色の花を咲かせます。

○春先に芽を出して急速に育つオオバイケイソウですが、木々の葉が茂って日陰になると、生長が止まります。花をつける株はごく一部で、それ以外は、皆茶色く枯れてしまいます。地下の根茎に栄養をたっぷりため込んで、次の春を待つことになります。

○マルバダケブキも、春～夏にかけての日の光を受けて大きく育ち、8月頃に黄色い花を咲かせます。アサギマダラというチョウはそのみつが大好きで、有毒物質を、自分の身を守ることや、およめさんと呼ぶためのフェロモンに作りに利用するそうです。

南から見た丹沢山地とトータル岩のおよその広がり(青く着色)



丹沢山地の中心部にはトータル岩

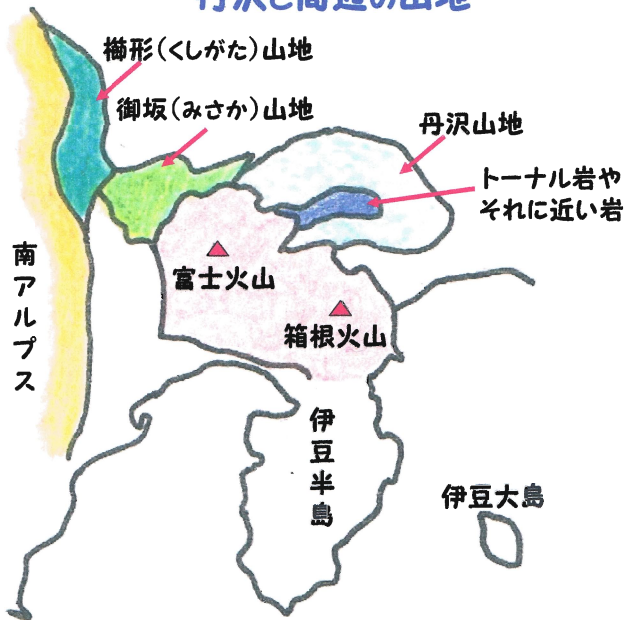
○丹沢山地の中心部に広がっているのは、「トータル岩」という聞きなれない名前の岩やそれに近いものです。マグマが上がってきて、地中深くでゆっくり冷え固まった岩です。

○トータル岩は、アルカリ長石という鉱物をほとんど含まないことが持ちようで、その点は「石英せん緑岩」に似ています。以前はその名前と呼ばれていましたが、正確に呼ばれることが増えました。少しだけ石英を含む石英せん緑岩より、もっと多く石英を含んでいます。

○トータル岩は、檜洞丸(ひのきぼらまる)の西側斜面やもっと西の畦ヶ丸(あぜがまる)などの山をつくっています。しかしそれより、玄倉川(くろくらがわ)や中川川など、西丹沢の谷で広く見られます。

○塔ノ岳～丹沢山～蛭ヶ岳など、丹沢の高い所をつくっているのは、昔の海に噴き出した溶岩や火山灰、流れ込んだ砂や泥などが厚く積もってできた岩です。トータル岩のマグマはそうした岩の下に入り込み、丹沢を押し上げて山地にする力のひとつになったようです。

丹沢と周辺の山地



伊豆半島のしょうとつが生み出した？ 丹沢の山々

○伊豆半島を含む地域をのせている岩盤は、昔はもつと南の海の中にあつたと考えられています。それが少しずつ北へ動いてきて、今から100～200万年くらい前に、その先端が本州にぶつかつてきました。その境目には、箱根や富士の火山が噴き出しました。

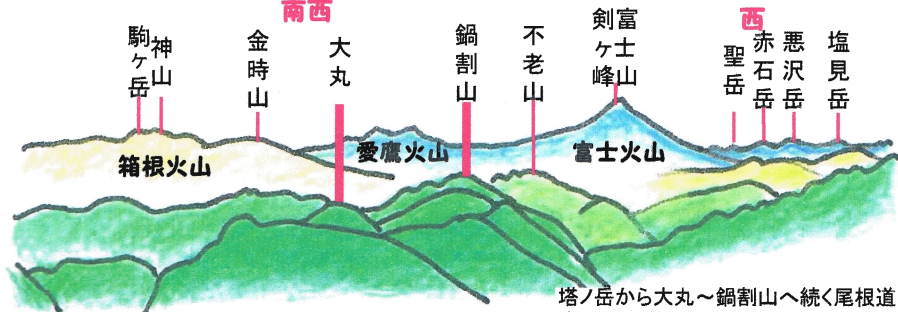
○伊豆半島がしょうとつしてきた力を受けて、丹沢の山々が押し上げられ、今のような山地が生まれたと考えられています。

○ところが、丹沢山地をのせている岩盤もまた、南の海から北上してきたという考えも出てきました。500万年ほど前に本州にしょうとつした丹沢の岩盤は、やがて本州の一部になつたらしいのです。

○もつと昔には、1200万年ほど前に櫛形山地(くしがたさんち:甲府の西にある山地)の岩盤が、900万年ほど前に御坂山地(みさかさんち:富士山の北側にある山地)の岩盤が、それぞれ南から動いてきて本州に付け加わつたらしい、とも考えられています。

塔ノ岳山頂からの展望

南西

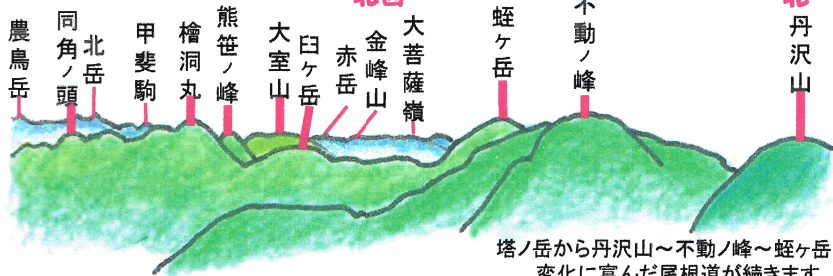


西

聖岳
赤石岳
悪沢岳
塩見岳

塔ノ岳から大丸～鍋割山へ続く尾根道は
ブナの林が残る気持ちのよいルートです。

北西



北

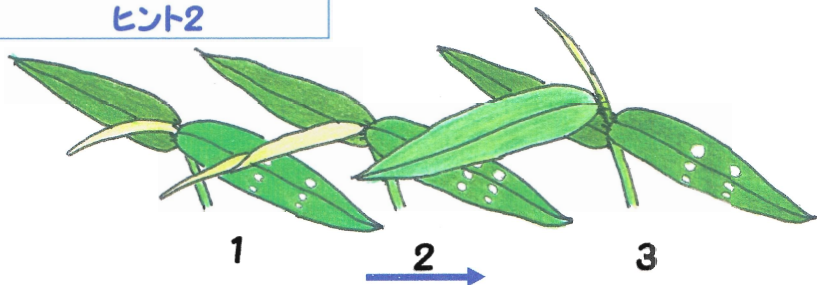
丹沢山

塔ノ岳から丹沢山～不動ノ峰～蛭ヶ岳へは
変化に富んだ尾根道が続きます。

丹沢の青い岩

- 丹沢の岩は、青っぽいものや緑がかったものが目立ちます。
- 岩の色は、それに含まれる鉱物の色を反映していますが、大ざっぱにいうと、青や緑などの色は多くの場合、中に含まれている鉄分と酸素の結びつきが弱いことを示しています。
- これに対して、中に含まれる鉄分が酸素と強く結びついていると、多くの場合、赤、茶色、黄色などの色になります。鉄が赤くさびたときの色というわけです。
- 地球上で酸素がたくさんあるのは、空気中です。地上に噴き出して固まった火山の溶岩や、地表に顔を出して風化が進んだ岩は、酸素との結びつきが強くなります。一方、深い海の底や、地中深くでできた岩の酸素との結びつきは、弱いものになります。
- このように岩の色は、その岩がたどってきた歴史を考えると、手がかりの一つになります。

ササの葉の穴のなぞ ヒント2



ササの葉は、このように芽を出して育ちます。

○ササの葉に穴をあけたのは、カやチヨウ、キリギリスの仲間などが疑われていますが、私たちはまだ確かめることができていません。子虫がかじったあとだと考える人が多いようですが、中の汁を吸うためにあけた穴と考える人や、お母さん虫が卵を生みこんだときの穴と考える人もいます。場所ごとの違いもありそうです。

○ササの葉は初め、くるくる巻きになって芽がのびてきます。穴が並んでいることがどう関係しているか、さらに考えてみてください。

「百名山自然ガイド」は、山歩きの楽しみをいっそう大きくすることのお役に立たないかと考えながら、山の美しい自然をいつまでも大切にしていきたいと願う仲間で作成しています。丹沢では、四季それぞれに分けた案内を下記に掲示しました。機会がありましたら、別の季節の丹沢もお訪ねください(http から https へ変更しました)。

<https://yama3823.com/100meizan/tanzawa/index.html>



左のアドレスのQRコードです

なお、いろいろ思い違いもありそうです。間違いにお気づきのときやご感想など、お寄せいただけると嬉しいです。 yama_3823 @ yama3823.com (メール送付のときは、添付ファイルはつけないようお願いできるでしょうか)

- 山では、ちょっとした不注意や判断ミスが事故につながります。安全を心がけて、余裕のある計画を立てましょう。特に夏は、雷雨が心配です。夏の午後は、早めに行動を切り上げましょう。
- ほとんどの山で、登山届の提出が求められています。予定のコースや日程を、入山前に届け出ましょう。
- 動植物や岩石の採取等が禁じられている区域がたくさんあります。そうでない場合も、ありのままの自然を大切にしましょう。
- ごみの放置は、生態系に大きな影響を与えます。ごみは、各自で持ち帰りましょう。

7~8月の花

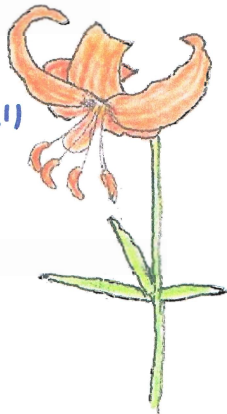
シモツケソウ



シモツケ



クルマユリ



ヤマオダマキ

